

# 口腔粘膜疾患とは？

口の中にはむし歯や歯周病以外にも口腔粘膜疾患と総称される、様々な症状を示す粘膜の病気が存在します。口内炎の様な一般的なもののから、口腔がんなどの悪性病変もその中に含まれます。

- 口腔カンジダ症
- 口腔乾燥症
- 扁平苔癬（へんぺいたいせん）
- 白板症（はくばんしょう）
- 血管腫
- アフタ性口内炎
- 口腔がん
- など



正常な粘膜



異常な粘膜



良性のものだけでなく、悪性のもの、また、良性と悪性の境界のものもあり注意が必要です。特に治療を必要としないもの、経過を見るものから、特殊な検査・治療を必要とするものもあり、様々です。

まずはかかりつけ歯科医に相談しましょう。



# 口腔カンジダ症

カンジダ菌というカビの一種による感染症です。症状として多数の白斑やヒリヒリ感などがあり、高齢者や抵抗力の弱い方に発症します。治療は口腔清掃と、うがい薬、ゼリー薬などを使用します。



# 口腔乾燥症

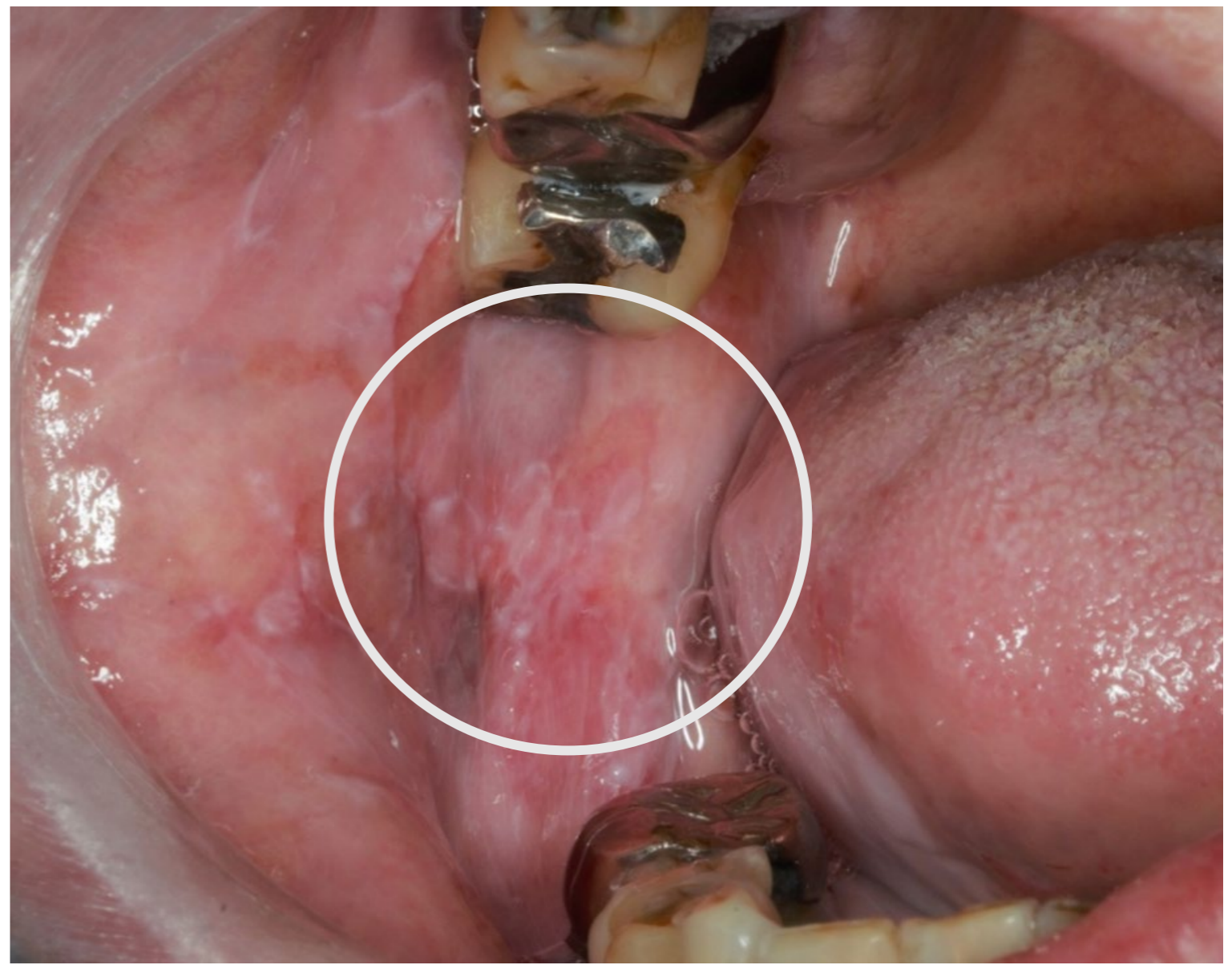
唾液分泌の低下により、口が乾いた状態のこと。症状は口腔内の違和感、口臭、う蝕の増加、喋りづらさ、食べづらさがあります。原因は加齢、ストレス、口呼吸、糖尿病や自己免疫疾患、内服薬などが考えられ、適切なケアと治療が必要です。





# 扁平苔癬 (へんぺいたいせん)

レース状の白色病変を特徴で、周囲に発赤や潰瘍を伴うことがあります。原因不明ですが、自己免疫疾患と考えられており、金属アレルギーとの関連があります。軟膏塗布やうがい薬を使用します。まれにがん化することもあり定期検診が必要です。



# 白板症 (はくばんしょう)

口腔粘膜にこすっても消えない白色病変でザラザラ感を認めることもあります。がん化する可能性があり、生検にて異形成を認める場合は、切除が推奨されます。再発することがあり、経過観察が必要です。





# 紅板症（こうばんしょう）

舌や頬粘膜などの口腔内に赤い斑点や潰瘍が現れる炎症性疾患で、痛みを伴うことがあります。治療が必要です。比較的癌化しやすい潜在的口腔悪性疾患です。



# 静脈奇形（血管腫）

血管組織から発生する良性の腫瘍で、様々な病態を示します。一方、真の腫瘍というよりは血管の発育異常とも考えられています。押すと色が消え、痛みはなく無症状であることが多い病変です。金属の着色や誤咬による血腫（血豆）とは異なります。





# アフタ性口内炎

灰色から黄白色の小円形の潰瘍です。もっとも一般的な口内炎で、舌や唇、頬粘膜、歯肉に発症します。症状に対してうがい薬や、ステロイド軟膏を使用します。通常は1～2週間で治癒しますが、繰り返す場合は医師に相談を。



# 粘液嚢胞 (ねんえきのうほう)

唾液の流出障害によって生じ、粘膜下に水風船のような唾液だまりを形成する病変です。口唇に好発し、通常は柔らかな腫瘍をつくります。自壊、再発を繰り返すこともあります。治療は、周囲の唾を作る細胞とともに摘出します。





# 口腔がん

原因：

喫煙や飲酒は口腔がんの発症リスクを高めます。また、合っていない義歯や放置したむし歯などによる慢性的な刺激も原因となります。

症状：

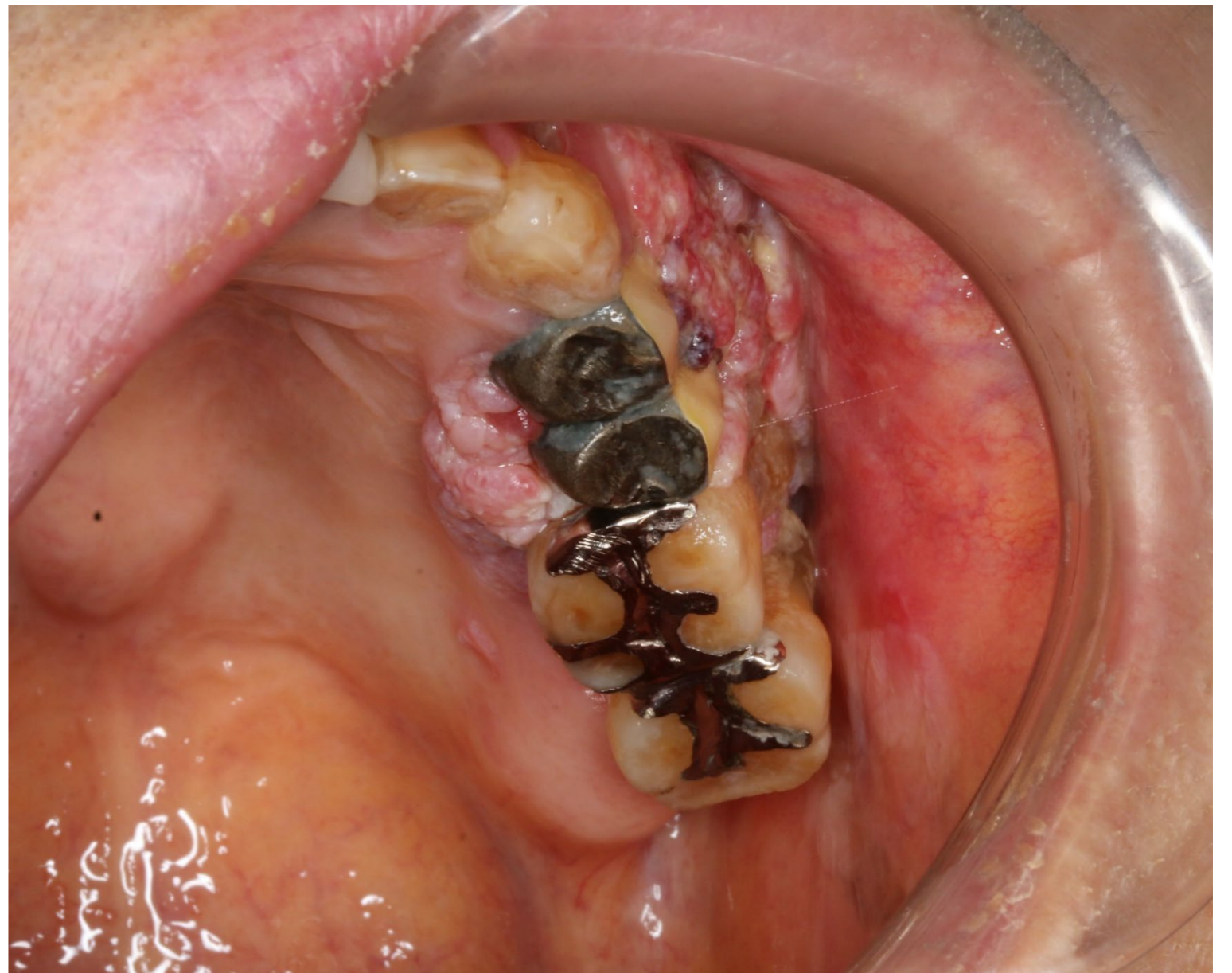
硬いしこりを伴う見た目に汚いできもの（こぶ、ぶつぶつ、えぐれなど）として現れます。初めのうちは症状の乏しい小さい病変ですが、急速に進行して痛みや出血を伴うようになります。

治療：

組織検査や画像検査を行い、がんの進行度を判定します。進行度に応じて、手術、放射線治療、抗がん剤治療を組み合わせ治療します。治療後も再発や転移を生じる事があるので、長期にわたる経過観察が必要となります。



舌がん



歯肉がん



口腔底がん



# 悪性黒色腫 (あくせいこくしょくしゅ)

メラノサイト（メラニンという色素を生成する細胞）から生じた悪性腫瘍です。口にはできることは稀ですが、できるとすれば、硬口蓋（口の天井部分）と上顎歯肉に発生することが多いとされています。極めて悪性度が高い病気です。



## (白血病による) 歯肉出血

全身的な病気の症状が口の中に最初に現れることがあります。写真は歯肉からの出血があり、歯科を受診したことで白血病と診断された症例です。このように、口の病気以外の疾患の発見につながることもあり、お口の確認は重要です。





# 尋常性天疱瘡 (じんじょうせいいてんぽうそう)

自己免疫性疾患で、口腔内に水疱や潰瘍ができ、痛みを伴います。皮膚にも症状が現れることが多いです。治療には免疫抑制剤やステロイドが有効で早期の治療が重要です。



# 類天疱瘡 (るいてんぽうそう)

尋常性天疱瘡に似た自己免疫性疾患で、皮膚や口腔内に水疱が現れます。症状は比較的軽度であることが多く、治療が可能です。





# 口唇ヘルペス

唇やその周囲に水疱を形成するウィルス性疾患です。抗ウィルス薬や軟膏塗布を行います。発熱などの体調不良を伴う場合は早めの治療が必要になります。



# 带状疱疹 (たいじょうほうしん)

水痘带状疱疹ウイルスによる再発感染。口腔内や顔面に水疱が現れ、強い痛みを伴うことがあります。体の左右どちらかに生じ、重症の場合は入院が必要になります。





# 溝状舌 (こうじょうぜつ)

舌の表面に溝や亀裂が現れる状態。通常は無害ですが、口腔内の衛生管理が重要ですが、通常治療の必要はありません。



# 地図状舌 (ちずじょうぜつ)

舌の表面に赤くて滑らかな部分が現れ、地図のような形状をとります。通常、痛みはありませんが、敏感になることがあります。





# 黒毛舌 (こくもうぜつ)

舌の表面に黒い毛のような突起が現れる現象です。舌の表面に真菌や死んだ細胞が付着することが原因で、口腔内の衛生状態が悪化することによって起きます。通常は無害ですが、抗真菌薬や口腔衛生の改善が推奨されます。



# 色素沈着

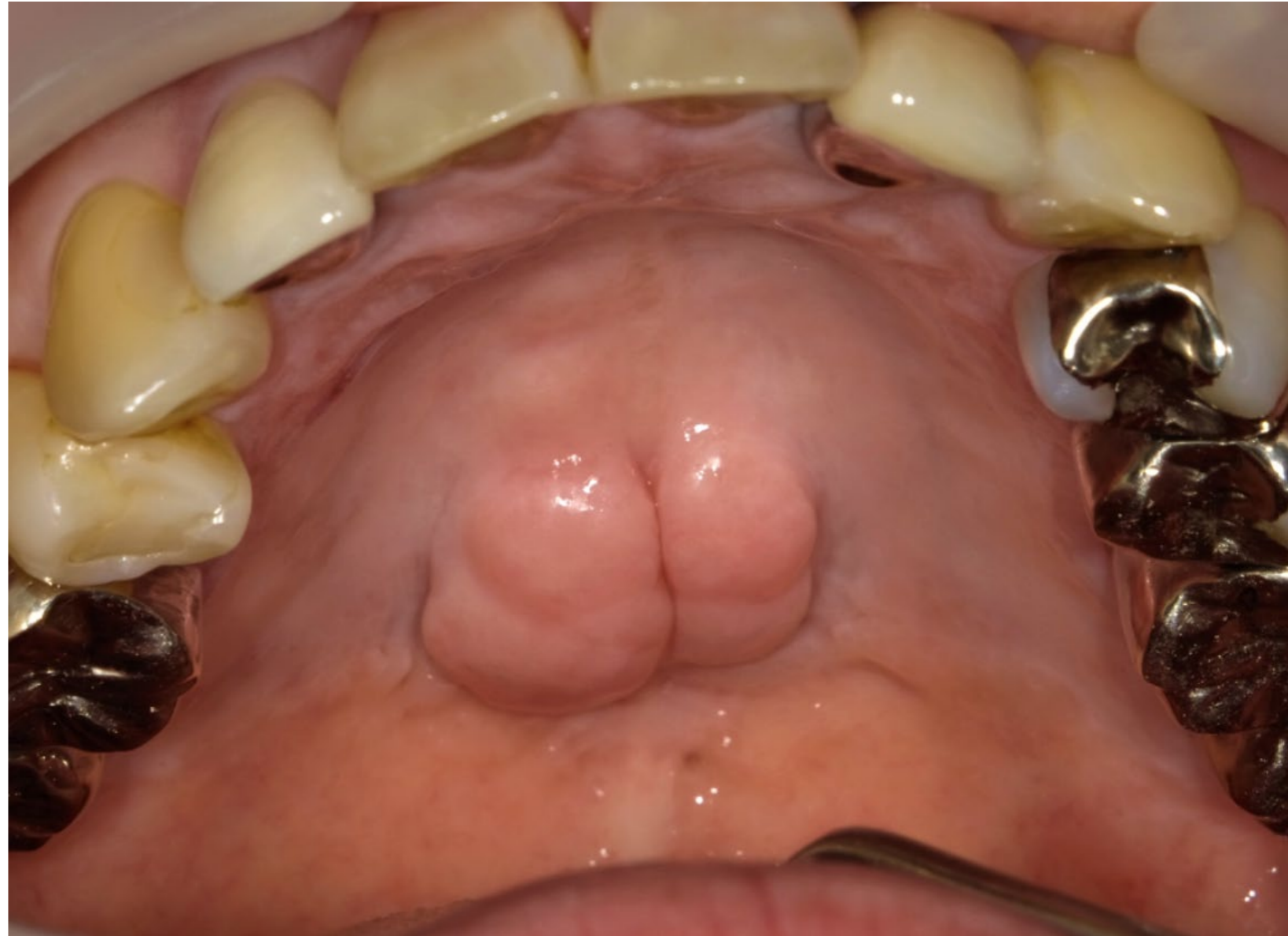
口腔内の粘膜に黒や茶色の色素が現れる現象で、通常は無害です。タバコや飲食物、口腔内の金属などが原因となり得ます。悪性黒色腫との鑑別が必要な場合があります。





# 骨隆起 (こつりゅうき)

顎骨が過剰な増殖により隆起したものです。病的なものではなく、基本的に治療は不要です。ただし、大きくなると歯ブラシや義歯があたり傷ができやすくなることがあります。義歯を作成する時に邪魔になる際には、手術で切除します。



# 咬傷 (こうしょう)

歯や義歯などで口腔内の粘膜組織を噛むことによって生じる傷。痛みや腫れを伴うことがあり、軽度でも感染することがあります。原因の除去を行い、ステロイド軟膏塗布で2週間程度で軽快します。

